

高砂西港における盛立地対策追加検証技術専門委員会
議 事 要 旨

日 時：平成 23 年 11 月 15 日（火） 9:30～11:00

場 所：東播磨県民局 5 階会議室

議事要旨：

1 開会

開会あいさつ

（東播磨県民局副局長）

- ・本日、検討・議論する盛立地対策については、平成 23 年 3 月に「高砂西港再整備技術専門委員会」において、恒久対策としての盛立地対策の工法検討や港湾整備等の環境影響低減策、環境監視方法の検討など、環境工学、土木工学および海洋生物学の観点から技術的な検討を行い、その検討の成果として取りまとめていただいたところである。
- ・しかしながら、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災を受けて、国の中央防災会議では今後の地震・津波対策の方向性について議論しており、県においても、国の検討結果が出るまでの間、暫定的に現想定の 2 倍の高さの津波で対策を進めている。
- ・国、県の動きを受けて、高砂市や高砂市議会より、盛立地対策の安全性について、東日本大震災を踏まえた追加検証を求める要望があったことから、この委員会が設置されたものである。
- ・委員の先生方には、よろしく議論をいただくようお願いする。

2 委員長の選任など

高砂西港における盛立地対策追加検証技術専門委員会設置要綱及び傍聴要領の確認

- ・事務局より資料 2（高砂西港における盛立地対策追加検証技術専門委員会設置要綱及び傍聴要領）の確認（事前に委員了解済）

委員長の選任

（委員）

- ・委員長には、推進協議会の委員でもあり、かつ、技術検討専門委員会の委員長をされていた藤田委員が適任だと思うので、藤田委員を推薦したい。

（委員）

- ・異議なし

（委員長）

- ・これまで、盛立地対策についてはいろいろな検討を行い、H23 年 3 月に報告書として取りまとめられ、その成果は推進協議会に報告されたところであるが、東日本大震災後、盛立地対策の安全性について追加検証を求める要望があったことから、この委員

会が設置された。

- ・この委員会では、これまで検討してきたことの追加検証を行い、最終的には、住民の方が安心していただけるような報告書に取りまとめていきたい。
- ・委員の皆さんには、専門的な立場から意見をいただきたいと思っている。

3 協議事項

3 - 1 地震に対する盛立地対策の安全性の検証について

3 - 2 津波に対する盛立地対策の安全性の検証について

- ・事務局より資料 1 (3-1 地震に対する盛立地対策の安全性の検証について、3-2 津波に対する盛立地対策の安全性の検証について) の内容を説明

(事務局) 道奥委員コメントを紹介するとともに回答

- ・津波予測シミュレーションにおける地盤隆起速度はどのように設定しているのか。

(事務局回答：瞬時として計算している)

- ・平均変位量 D とマグニチュード M の関係式において、式が成立した背景を調べておくこと。

(事務局回答：地震データは、マグニチュード 8.0 以下を用いた回帰式である)

(委員長)

- ・委員の皆さんには、専門的な立場からシミュレーションの前提となる考え方についての妥当性など、質問あるいは意見をいただきたい。

(委員)

- ・地震動について、マグニチュード 9.0 に対応した基盤面における最大加速度は、具体的にどのぐらいの数値だったのか。

(事務局)

- ・基盤面における最大加速度の数値は、東南海・南海地震は 122gal、東海・東南海・南海地震は 118gal になっている。

(委員)

- ・東南海・南海地震は 122gal が 162gal になり、東海・東南海・南海地震は 118gal が 156gal になったということで良いか。

(事務局)

- ・そのとおりである。

(委員)

- ・図 3.4-3 の基盤波形で、東南海・南海地震の M8.6 と東海・東南海・南海地震の M8.7 に対して 107gal となっているが、マグニチュード 9.0 にした時に、122gal、118gal

に上がったということで良いか。

(事務局)

- ・そのとおりである。

(委員)

- ・地震動について、現在、中央防災会議で見直しをしているが、現計画の山崎断層帯地震では、450gal に対して、今回検討した海溝型地震をマグニチュード 9.0 にした場合でも最大で 162gal となり、仮に変動したとしても 450gal に比べるとそんなに大きな影響を受けないのではないか。中央防災会議の結果が出た時点で、もう一度確認をお願いしたい。

(委員)

- ・高潮の最大推定潮位 TP+4.2m は、どういう状況で算定したのか。

(事務局)

- ・高潮の最大推定潮位の考え方は、既往最大の第 2 室戸台風が最も危険なコースを通過したらどうなるかの条件で算定しており、第 2 室戸台風のコースを西に 1.5 度移動させた経路が最大潮位になるということで、TP+4.2m を最大推定潮位としている。

(委員)

- ・津波予測シミュレーションを検討した際に、朔望平均満潮位を考慮して危険側の算定をしているのか。

(事務局)

- ・現計画の津波高さ TP+1.8m についても、朔望平均満潮位にプラス津波高で算定していることから、同じ条件とした。

(委員)

- ・表 3.5-3 の津波予測シミュレーション結果において、他の委員からも質問があったように、初期地盤変動量 2 倍、3 倍、4 倍とした時の津波到達最高水位の変化が少ないことについては、鳴門海峡や友ヶ島水道で津波エネルギーが大きく分散するためである。
- ・図 3.5-3 の比較検証位置図に示す港内で、現計画の津波高を検証しているが、できれば、津波エネルギーの分散の影響が少ない港外での計算結果があれば、住民の方にも分かりやすいのではないか。

(事務局)

- ・港外での津波高のデータは整理していない。

(委員)

- ・表 3.5-3 の津波予測シミュレーション結果にある津波到達最高水位は、遡上高と考えて良いのか。

(事務局)

- ・津波予測シミュレーションの結果、スピードを持った津波が陸域に遡上した時の遡上高さである。

(委員)

- ・例えば、傾斜している斜面があれば、そこを津波が駆け上がってくることを遡上と言うが、津波の遡上による最高水位ということで良いか。

(事務局)

- ・そのとおりである。

(委員)

- ・そうすると、「高砂西港沿岸域での津波到達最高水位を 2 倍とした暫定津波高さ」とした T.P.+2.9m は津波の遡上高さを 2 倍にした水位ではなく、「現行津波高さの 2 倍とした暫定津波高さ」と記載した方がよいのではないか。

(事務局)

- ・ご指摘のとおり、修正させていただく。

(委員)

- ・表 3.5-3 の津波予測シミュレーション結果に参考として記載している「暫定津波高さ」、「高潮の最大推定潮位」と、初期地盤変動量を 2 倍、3 倍、4 倍とした津波到達最高水位を比較するような表形式になっているが、この参考値と津波到達最高水位は単純には比較できないので、その違いをはっきりと記載する方がよい。

(事務局)

- ・参考に記載している「暫定津波高さ」と「高潮の最大推定潮位」はスピードを持ったものではないので、表現方法については、注釈をいれるなど、ご指導をいただきながら行う。

(委員長)

- ・委員から指摘を受けたことについては、記載方法の問題であり、「津波到達最高水位」については、変更ないということで良いか。

(事務局)

- ・そのとおりである。

(委員長)

- ・今回の盛立地対策の追加検証によって、東北地方太平洋沖震災規模の地震が南海トラフなどの領域で発生した場合でも、地震・津波に対する現計画の盛立地対策を見直す必要はないということが確認された。
- ・先ほど、委員から指摘のあった内容を整理し、誤解のないように報告書を取りまとめるようお願いする。
- ・最終報告書の取りまとめについては、委員長一任ということでまとめさせていただきたい。

(委員)

- ・異議なし

(委員長)

- ・本日、委員会で検討した結果、東日本大震災を踏まえた上で、盛立地対策については、これまで検討してきた対策内容で問題ないことがわかった。このことにより住民の方の心配をある程度解消することができたのではないかと思う。ある程度というのは、中央防災会議の動向を見ながら確認する必要があると思うが、早急に検討が必要ということで、委員会形式で検討を行った。
- ・今後も住民の安全・安心を基本に高砂市臨海部の活性化を目指して、盛立地対策が後戻りすることがないように進めていただくよう、行政、企業の方々にはよろしく願いしたい。

3 - 3 その他

(事務局)

- ・今後、事務局としては、ご指摘いただいた内容の修正を行い、追加検証の最終報告書の作成を行っていく。その際には、先生方にご指導をいただくことがあると思うが、よろしく願いしたい。
- ・追加検証の結果は、高砂西港再整備推進協議会に報告するとともに、市の広報などを通じて住民の皆さまにお知らせしていく。

以 上